

戦気

Fighting Spirit

発行者: 三谷大和
 編集者: 岩井淑
 八千代市八千代台東1-44-13 三谷大和スポーツジム
 電話 & Fax: 047(486)2476 ツヨクナロー
 メール: mitani-y@khaki.plala.or.jp
 URL: http://www.mitani-yamato.com/

マスコットの
 ごんごちゃんです



6月3日 第65回 東日本新人王トーナメント戦

加藤健太・KO勝利!

6月3日、東日本新人王トーナメント戦に三谷ジムから加藤健太、大塚メロン貴光の2選手が出場し1勝1敗だった。

ライト級シード選手として2回戦に登場した加藤健太の対戦相手は齋田ジムの天内祐樹選手(22歳): 3戦2勝(2KO)1敗のサウスポーでパンチのあるテクニシャン。

加藤は一昨年の東日本新人王決定戦で敗れた以後、昨年は1試合戦ったのみで全てを今年の新人王戦に焦点を当て練習を積み重ねてきた。1年間で1試合戦ったのみで実戦から離れていることにたいし一抹の不安があったがそれは全くの杞憂にすぎなかった。

1ラウンドはお互いに相手の動きを探りあい、加藤の踏み込んでの右フックに対して天内も左ボディを打ち返し、天内の左フックに加藤は右ストレートを打ち返す。

2ラウンドには天内の強烈な右フックを受けたあと、加藤は右ストレートを打ち返し、両者の手数が多くなったと感じ出した時、文字通りのハードパンチャー加藤の右フックが炸裂し、天内はもんどりうってのダウン。天内は立ち上がったが加藤は追撃のパンチを緩めず2ノックダウンの見事なKO勝利を飾った。ノックアウトタイムは1分50秒。

三谷会長のコメント

今日の加藤は頭を使った戦い方をした。相手に対して僕が教えたのと違い、自分で考えた戦い方だった。前の試合で次の対戦相手が良い試合をしたので加藤も気合を入れていた。最後は上手くまとめた。メロンは気負いすぎだった。相手の出てくる距離が分かっていなかった。前回のような戦い方をすれば勝てただろう。今日の戦いは、僕の採点では引き分けでもよかったかな、と思う。



シリーズ: 選手紹介

加藤健太(21歳)

生年月日: 1985年11月8日

出身地: 新潟県上越市出身

階級: ライト級

戦歴: 6戦: 5勝(4KO)1敗

2004年12月、三谷大和ジムへ入門

2005年12月、プロデビュー初勝利

2006年11月、東日本新人王決定戦敗退

好きな言葉: 英雄と臆病者は恐怖心にどう対処するかで違ってくる。最後までやり遂げるかやり遂げないかで、人は英雄にも臆病者にもなるのだ。

好きな選手: 三谷大和会長

自分の目標: 目前は新人王。最終的に世界チャンピオン。



ライト級・2回戦

後楽園ホール

大塚メロン貴光 判定負け(6/3)

「絶好調です」という言葉を残してリングに上がったメロンだが言葉とは裏腹に打ち出すパンチに勢いが感じられない。パンチに切れがなく置きにくいような軽いパンチなのだ。4ラウンド判定の結果、3:0の判定負け。

がんばれ! 高校生!



関東大会3位・林涼樹



関東大会3位・小林慶行

千葉県決勝に3人進出し2人優勝(個人)。団体は3位。

5月5日~6日、10日~11日の4日間で関東高等学校ボクシング大会千葉県予選が習志野高校ボクシング場で開催されました。三谷大和スポーツジムで練習を積んでいる佐倉西高校の林涼樹(ライトフライ級)、貝瀬雄紀(フライ級)、小林慶行(バンタム級)の3選手が出場し、3人ともに決勝戦まで勝ち進み、林涼樹、小林慶行の2名が個人優勝し千葉県代表として5月30日~6月2日に千葉県鴨川市で開催される関東大会へ出場することが決まりました。団体戦は3位になりました。

千葉県代表で関東大会に出場し、2名ともに3位。

5月30日~6月2日に千葉県鴨川市文化体育館で開催された関東大会に千葉県代表として出場した林涼樹、小林慶行の2名は1回戦を突破し準決勝戦に駒を進めました。林涼樹も小林慶行もいずれも茨城県代表選手と戦い、僅差の判定負けを喫してしまっ。試合後、悔し涙を流していた2名だが、両名とも全力を出して戦った結果だから、この敗戦の中から学ぶことも多くあり、それを糧としてひとまわり大きな自分へと成長していこう。関東大会3位は立派だ。胸を張れ、高校生! 頑張れ、高校生!

スケジュール

- 7月02日 玄間晃裕、山本直平 新人王2回戦
- 7月14日 福本雄基 第8戦
- 7月30日 鬼ヶ島竜 新人王2回戦
- 8月05日 岩井大 新人王3回戦

編集後記

人間全般に言えることですが、闘志をみなぎらせた熱き心と冷静でクールな頭脳とを併せ持つことが重要であり、特にスポーツマンにとっては大切なことだと思います。ボクシングへの熱い情熱が未来を切り拓くのだ。



ごんごちゃんは見た!!

自分で克服していくべき課題を明確にし、日々の練習において自己の限界まで取り組み、頭で考える練習をすることです。会長やトレーナーが素晴らしいアドバイスをくれたとしても、それ以上のものを学ばなければ決して強くなれません。練習でかいた汗の量が糧となって試合での動きに現れ、それは自信につながるのです。練習に真剣に取り組まないものはいくら素質があっても大成しないでしょう。